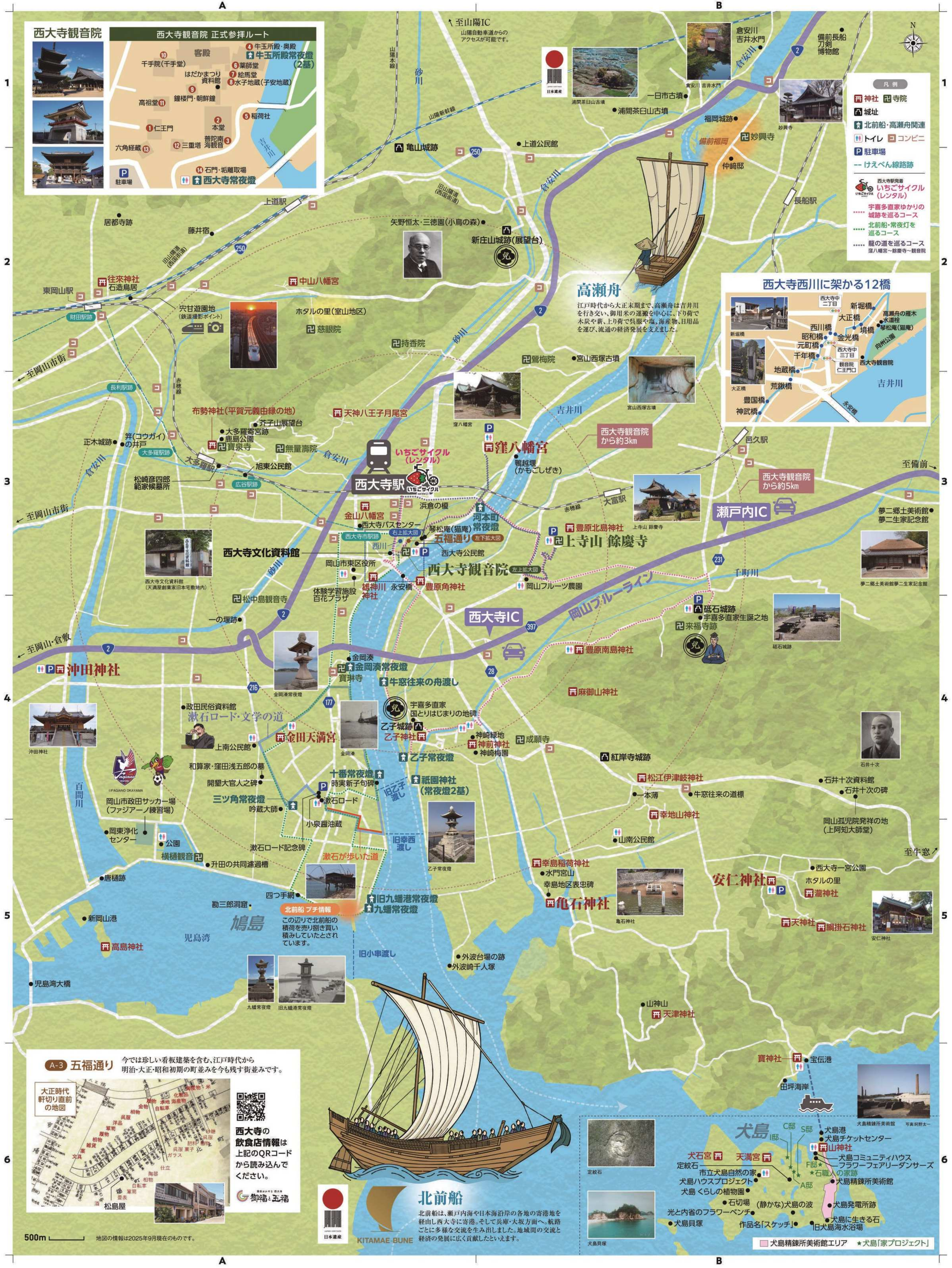




西大寺観音院



西大寺観音院 正式参拝ルート



西大寺西川に架かる12橋



高瀬舟

江戸時代から大正末期まで、高瀬舟は吉井川を行き交い、御用米の運搬を中心に、下り荷で木炭や薪、上り荷で呉服や塩、海産物、日用品を選び、流通の経済発展を支えました。



A-3 五福通り

今では珍しい看板建築を含む、江戸時代から明治・大正・昭和初期の町並みを今も残す街並みです。



西大寺の飲食店情報は上記のQRコードから読み込んでください。



北前船

北前船は、瀬戸内海や日本海沿岸の各地の寄港地を経由し西大寺に寄港。そして兵庫・大坂方面へ。航路ごとに多様な交流を生み出しました。地域間の交流と経済の発展に広く貢献したといえます。



犬島



〳 古代から現代まで 〳

西大寺は

歴史の博物館

OKAYAMA

SAIL

DAI

NAOIE UKITA

TAKASEBUNE

SOUSEKI NATSUME

KOFUN

KITAMAE BUNE

西大寺・上道 [ガイドマップ]

発行

一般社団法人 西大寺活性化協議会

岡山市東区西大寺中3丁目6番15号 info@sd-machizukuri.jp

イベント・文化・歴史…観光スポットがいっぱい

西大寺会陽

毎年2月の第3土曜日、西大寺観音院の境内は1万人近い様の群れで溢れます。本堂の御福窓から2本の宝木が投下されると、祭りはクライマックスを迎えます。勇壮な争奪戦の末に宝木を獲得した者は福男と呼ばれます。

西大寺文化資料館

地元百貨店天満屋の創業150周年を記念して整備された創業家旧本宅の衣裳蔵を借用して昭和54年(1979年)に開館しました。郷土史研究グループの西大寺愛郷会が運営しており、日本遺産構成文化財や西大寺会陽などの資料を常設展示しています。

備前長船刀剣博物館・上杉謙信公の愛刀「山島毛」

山間部の豊かな鉄資源が集積した長船(瀬戸内市)の日本刀は評価が高く、国宝の半数を占めています。この博物館は世界的に見ても珍しい、刀剣専門の博物館です。2020年(令和2年)に国宝の「山島毛」が所蔵品に加わり、注目を集めました。

西大寺鉄道(けえべん)

西大寺鉄道は、西大寺市駅(岡山市東区)と後楽園駅(同中区)の間を結んでいた鉄道です。特殊軌間(3フート軌間)を用いた鉄軌道の中で最後まで残った路線です。地元民には「けえべん」の愛称で親しまれ、昭和37年(1962年)に国鉄赤穂線(伊部〜東岡山間)の開通により廃止されました。

西大寺と北前船

西大寺は北前船や高瀬舟が寄港する交易の中心地として繁栄し、市場の喧騒、街の賑わいに活気が溢れていました。

高瀬舟

物流機能として「高瀬舟」が活用された原点。北部の年貢米や特産品を積んで吉井川を下り、上りでは生活用品を積んだ高瀬舟を航海や人が曳いて北上しました。吉井川では全長5m幅2m(乗員3〜4名)の舟を使用し、津山・美作方面への上りは3〜4日、西大寺までの下りは1〜2日を要しました。

旧九幡港常夜燈

吉井川の河口に位置するため、西大寺に向かう北前船の航行にも重要な役割を果たしました。岡線は瀬戸内海に沿って海岸線や島々が点在しており、近世由来の常夜燈が数多く残っています。旧九幡港常夜燈は規模が大きく、花崗岩の切石だけで築造されており、備前の伝統的な石工の技術が伺えます。

旧九幡港常夜燈

吉井川の河口に位置するため、西大寺に向かう北前船の航行にも重要な役割を果たしました。岡線は瀬戸内海に沿って海岸線や島々が点在しており、近世由来の常夜燈が数多く残っています。旧九幡港常夜燈は規模が大きく、花崗岩の切石だけで築造されており、備前の伝統的な石工の技術が伺えます。

旧備前国一宮・安仁神社

当初の創立年月日不詳、歴史については、「続日本後記」の承和8年(841年)「安仁神預名神遷」とあるのが初見であり、「延喜式神名帳」に備前国名神社とあります。縄文晩期、豊かな吉備の地に神武東征の一行は長年逗留し、その縁でこの地に兄貴等の尊彦を鎮祭。従って皇室とも関係が深く「名神大社」「国幣中社」と称され、勅使差遣の社・幣饗料奉納(最近では令和6年(2024年)5月25日)の社。

武運の神・達八幡宮

古来より、武運・勝運の神として、足利尊氏、赤松正則、松田元成、宇喜多直家、秀家、池田光政など多数の参詣の記録が残されており、備前国四大神社の社に数えられた由緒正しい八幡宮です。境内には全国でも珍しい「三葉の松」が自生しており、葉が金色になってから落葉するため金満の御利益があるとされています。

学問の神・金田天満宮

明治25年(1892年)7月、夏目金之助(漱石)が訪れたとされる金田地区の氏神様で、金田村の一村一社として地域の天神様として慕われて来ました。学問の神様(菅原道真公)を祀る文学のパワースポットです。

おきた矩伝説・沖田神社

御祭神は、天照御神(あまてらすおみかみ)と素戔嗚尊(すさのおのみこと)です。沖新田の開墾の際に、産土神(うぶすなのかみ)として、元禄7年(1694年)に建立されたと伝えられています。おきた姫は沖新田の千拓工事の際に人柱となり、工事の成功に貢献したとされる女性で本名は「きた」と言われています。

天台宗上寺山餘慶寺

上寺山餘慶寺は、愛山護法(お山を大切に、仏教の教えを大切に)するの思いを持って、善い行いを積み重ねてきた歴史あるお寺です。報恩大師の開基として伝えられている備前四十八カ寺のひとつで、天平勝宝元年(749年)の開山です。江戸時代には岡山藩主池田氏の庇護のもとで栄えました。現在は6院であり、建ち並ぶ諸堂と合わせた境内屈指の大伽藍と言えるでしょう。

天台山・上寺山餘慶寺

上寺山餘慶寺は、愛山護法(お山を大切に、仏教の教えを大切に)するの思いを持って、善い行いを積み重ねてきた歴史あるお寺です。報恩大師の開基として伝えられている備前四十八カ寺のひとつで、天平勝宝元年(749年)の開山です。江戸時代には岡山藩主池田氏の庇護のもとで栄えました。現在は6院であり、建ち並ぶ諸堂と合わせた境内屈指の大伽藍と言えるでしょう。

北前船ゆかりの地として繁栄した「岡山西大寺」

美作と瀬戸内海を結ぶ金岡湊

江戸から明治にかけて、吉井川河口付近の湊は、高瀬舟の終着点として、美作地方と瀬戸内海をつなぐ河川港として栄えました。

高瀬舟をつないだ浜倉の榎

高瀬舟の船頭たちが船を着ける目印にした浜倉の榎。左はおよそ110年以上前の写真ですが、女性達に対して榎の窪みの位置が低い。現在は榎の生みは経年の屋根の高さほどに成長、いかに榎が伸びたかが分かります。

豊田秀吉や宇喜多家ゆかりの地

宇喜多家再興の地・砥石城跡

「天下人に仕えた宇喜多家の成功ドラマ」豊田五大老の一人、岡山城初代城主宇喜多秀家公。その父・直家公は砥石城にて夜襲を受け、宇喜多家存続の危機に陥ります。しかし、巧みな戦略や間略により宇喜多家を再興。織田方と毛利方に挟まれた土地ながらも、乱世の世にて出世を遂げた才能に溢れる武将です。天下人の大老にまで登り詰めた宇喜多家の物語はこの砥石城から始まります。

中国大返し・豊国橋

高松城水攻めの後、豊臣軍は本能寺の変に際し「中国大返し」を実行。当地では本隊が山陽道にて京都に向かう一方、秀吉公は西大寺から牛窓経由で海路を選択したと伝えられています。その時に渡ったとされる豊国橋の親柱が、雄神川神社の境内に移築されています。

備前福岡・仲崎邸住宅主屋

国宝「一進上戸人給伝」に「福岡の市」として登場し、中世から近世において西国一の商業地・宿場町として栄えました。福岡藩の黒田家ゆかりの地で、福岡県の名の由来となりました。仲崎邸は大地主の邸宅で、国の登録有形文化財です。

備前の古墳

浦岡茶臼山古墳

備前の古墳は2000を超え、前方後円(方)墳は60ほどで他は円墳や方墳。吉備で最古の大型前方後円墳浦岡茶臼山古墳(全長138m)は国指定で、卑弥呼の墓といわれる奈良県桜井市菅塚古墳の1/2の相似で、畿内との関係が指摘されています。

宮山西塚古墳

吉井川堤防から約300mの山麓にある宮山西塚古墳は、古墳時代終末期の大型横式石室墳。石室は全長13.5mで岡山県下8位の規模で、家形石棺があり、吉井川の水上交通を掌握していた首長の墓とされています。

雷原道真公と犬石様

瀬戸内海に浮かぶ周囲約4kmの犬島は、その昔、崖に遺った菅原道真公が犬の鳴き声を頼りに島にたどり着いた伝説が名前の由来とされています。かつては花崗岩の産出地であり、現在は近代化産業遺産に認定された銅の製錬所跡を再生した大島精錬所美術館や、集落に点在するギャラリー、犬島「家プロジェクト」などが展開される「アートの島」として注目されています。

大島精錬所美術館

犬島精錬所美術館は、犬島に残る銅製錬所の遺構を保存・再生した美術館です。太陽や地中熱などの自然エネルギーを利用した環境に負荷を与えない三分一薄志の建築と、日本の近代化に警鐘をならした三島由紀夫をモチーフにした柳幸典の作品を公開しています。

歴史を感じる神社仏閣が多く点在

西大寺観音院

この寺院の正式名称は、高野山真言宗別格本山金陵山西大寺です。毎年2月に行われる会陽(えよう、裸祭り)が有名です。創建は寺伝によると天平勝宝3年(751年)で、西大寺の街は、観音院を中心に門前町として発展しました。

武運の神・達八幡宮

古来より、武運・勝運の神として、足利尊氏、赤松正則、松田元成、宇喜多直家、秀家、池田光政など多数の参詣の記録が残されており、備前国四大神社の社に数えられた由緒正しい八幡宮です。境内には全国でも珍しい「三葉の松」が自生しており、葉が金色になってから落葉するため金満の御利益があるとされています。

学問の神・金田天満宮

明治25年(1892年)7月、夏目金之助(漱石)が訪れたとされる金田地区の氏神様で、金田村の一村一社として地域の天神様として慕われて来ました。学問の神様(菅原道真公)を祀る文学のパワースポットです。

おきた矩伝説・沖田神社

御祭神は、天照御神(あまてらすおみかみ)と素戔嗚尊(すさのおのみこと)です。沖新田の開墾の際に、産土神(うぶすなのかみ)として、元禄7年(1694年)に建立されたと伝えられています。おきた姫は沖新田の千拓工事の際に人柱となり、工事の成功に貢献したとされる女性で本名は「きた」と言われています。

天台宗上寺山餘慶寺

上寺山餘慶寺は、愛山護法(お山を大切に、仏教の教えを大切に)するの思いを持って、善い行いを積み重ねてきた歴史あるお寺です。報恩大師の開基として伝えられている備前四十八カ寺のひとつで、天平勝宝元年(749年)の開山です。江戸時代には岡山藩主池田氏の庇護のもとで栄えました。現在は6院であり、建ち並ぶ諸堂と合わせた境内屈指の大伽藍と言えるでしょう。

天台山・上寺山餘慶寺

上寺山餘慶寺は、愛山護法(お山を大切に、仏教の教えを大切に)するの思いを持って、善い行いを積み重ねてきた歴史あるお寺です。報恩大師の開基として伝えられている備前四十八カ寺のひとつで、天平勝宝元年(749年)の開山です。江戸時代には岡山藩主池田氏の庇護のもとで栄えました。現在は6院であり、建ち並ぶ諸堂と合わせた境内屈指の大伽藍と言えるでしょう。

西大寺の橋、千拓について学ぶ

西川に架かる12橋

西川は当初、江戸時代の寛文12年(1672年)に灌漑用に築造された用水で、吉井川の氾濫緩和から取水し、西大寺の市街地を灌漑しています。川には趣きのある大小様々な橋が架かり、川べりには情緒ある風景が続いています。

高瀬舟の雁木と水道柱

高瀬舟の荷物の積み降ろしに使われていた石段「雁木(がんぎ)」は、この五幡通り付近ではここしか残っていません。そこに立つ水道柱は大正11年(1922年)4月に水道が開通した時の物です。備前商都として繁栄した西大寺に県内でも早くから水道が引かれたことを示しています。

新旧永安橋

最初の永安橋が架けられたのは明治11年(1878年)です。洪水による流失もあり、昭和7年(1932年)に鋼鉄製の橋に架け替えられ、その赤いアーチの美しい橋は以降54年に渡り市民に親しまれます。モータリゼーションの進展とともに昭和61年(1986年)に現在の新しい橋に生まれ変わりました。

上南公民館

昭和44年(1969年)の西大寺市と岡山市の合併を機に「市立公民館建設運動」が盛り上がり、その成果としての上南公民館が設置されました。令和6年(2024年)8月には開館50周年を迎えています。江戸時代に金岡新田・沖新田として千拓された田園地帯の中にあります。

児島湾千拓の歴史

海の水路であった児島湾は、吉井川・旭川が流れ込み干潟が自然にできました。その後、戦国時代の宇喜多堤、江戸時代の津田永忠による沖新田千拓などを経て、昭和38年(1963年)塩害を防ぎ農業用水を確保する締切堤防設置後、千拓事業は完了しました。